

基本施策の振返りシート

基本施策	G3 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります
------	--------------------------

主管課：スポーツ振興課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
市民が	いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ・レクリエーションに親しんでいる。

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
G3-1	市民が気軽に運動やスポーツを実施できる環境の充実	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○市民体育レクリエーション祭や長崎ベイサイドマラソン&ウォーク等の各種スポーツイベントの開催 ○ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致の取組み ○V・ファーレン長崎のホームゲームに市内の小中学生とその保護者を無料招待
G3-1	市民ニーズに応じたスポーツの場所や機会の提供	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○市営体育施設や学校体育施設の貸出しによるスポーツを「する場所」の提供
G3-2	ジュニア層の競技力向上対策事業の継続した取り組み	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○各競技団体が実施した強化事業の支援 ○各競技団体が実施した強化練習、遠征試合、優秀チームや指導者招聘などのジュニア強化事業の支援 ○スポーツ教室や指導者研修会等にスポーツ普及指導事業の支援 ○全国大会等出場選手に対する経費の一部補助



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
市民体育・レクリエーション祭や長崎ベイサイドマラソン&ウォークなどの各種スポーツイベントに、毎年15,000人前後の参加があった。	各種スポーツイベントを開催することにより、多くの市民がスポーツに親しむことができた。
「ラグビーワールドカップ2019」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」のキャンプを誘致した。	キャンプを誘致することで、世界のトップ選手と市民との触れ合いなど通じ、一流のスポーツを身近に感じる機会を提供できた。
V・ファーレン長崎のホームゲームへの無料招待に毎年多くの応募があった。	トップレベルの競技を間近でみる機会を提供することで、より「みるスポーツ」への関心を高めることに繋がった。
市営体育施設や学校体育施設を延約260万人の市民に貸し出した。	多くの市民がスポーツに親しむことができた。
国体に出場する県選手団における市出身者の割合が向上した。	各競技団体が実施する強化事業が功を奏し、各競技者が高い競技力を発揮することにつながった。
各競技団体が実施するジュニア強化事業を支援することで、実施団体、実施回数が増加し、その結果参加する児童生徒人数を増すことができた。	ジュニア世代の強化が進むことで、将来にわたって継続的に競技力の向上が図られた。

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
各種スポーツイベントに毎回参加する市民がいる一方で、新たに参加する市民を増やせず、参加者数は減少傾向にある。	各種イベント開催の広報周知が不十分で、誰でも気軽に取り組めるニュースポーツ等の啓発も不足している。
世界のトップ選手がキャンプをしていることを知らない市民がいる。	さまざまな機運醸成事業を実施しているが、その効果がまだ十分に現れておらず、報道各社に取り上げられることも少ない。
土日祝日や夜間は利用者は多いが、平日昼間の利用には空きがある。	平日昼間の利用促進を図る新たな事業の実施に向けての検討が進んでいない。
国体の県代表となるまでの競技力は高まったものの、全国での好成績になかなかつなげない。	競技力向上の取組みは、すぐに効果が表れないものもあるため。
小中学生の国際・全国・九州大会出場に係る補助対象件数が目標値を下回った。	少子化の影響で、特に団体競技ではチーム編成にも苦慮している状況にあり、切磋琢磨できる環境や出場機会の減少につながっているため。

市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.36	22 位 / 43項目中
	再検討	期待度	1.17	26 位 / 43項目中

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
スポーツ実施率	38.2% (21年度)	↑ 目標値	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
		実績値	38.4	38.7	39.2	37.6	35.0
		達成率	91.4%	88.0%	85.2%	78.3%	70.0%
【補助代替指標】 スポーツ施設の利用者数	2,367,605人 (21年度)	↑ 目標値	2,391,000	2,415,000	2,439,000	2,463,000	2,488,000
		実績値	2,418,216	2,317,647	2,505,614	2,583,480	2,653,842
		達成率	101.1%	96.0%	102.7%	104.9%	106.7%

※参考指標「スポーツ施設の利用者数」については、長崎市政策評価委員会からの指摘に基づき、平成26年度からハートセンター体育施設の利用者数(H26:40,046人、H27:41,433人)を含めて計上している。

【後期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
運動・スポーツ実施率	37.6% (26年度)	↑ 目標値	46.7	51.3	55.9	60.4	65.0
		実績値	37.4	34.7	36.2		
		達成率	80.1%	67.6%	64.8%		
市営スポーツ施設の利用者数	2,583,480人 (26年度)	↑ 目標値	2,672,000	2,717,000	2,763,000	2,810,000	2,860,000
		実績値	2,636,866	2,519,983	2,602,788		
		達成率	98.7%	92.7%	94.2%		

※H28以降の「市営スポーツ施設の利用者数」については、ハートセンター体育施設の利用者数(H29:42,881人)を含んでいる。

【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
運動・スポーツ実施率	国の「スポーツ基本計画」において、3人のうち2人が週1回以上運動やスポーツを実施していることが、生涯スポーツ社会の実現が図られている基準として示されているため、65%を目標値とし、市民意識調査の結果を実績値としているが、運動・スポーツの定義づけを見直すなど、次期総合計画では検討する余地がある。
市営スポーツ施設の利用者数	本指標の増加が市民がスポーツ・レクリエーションに親しんでいることを確認することができるため、指標として適したものではあるが、さらに一歩進んで、公民館やふれあいセンターでスポーツ・レクリエーションの利用者を対象に加えるなど、次期総合計画では検討する余地がある。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況					令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号
				完結	対応済	対応不可	対応中	検討中		
基本施策G3 スポーツ・レクリエーションの 振興を図りま す	スポーツ振 興課	<p>○ 基本施策の成果指標「運動・スポーツ実施率」について、週1回1時間以上実施している方をアンケート調査から把握しているが、長崎市スポーツ推進計画を見直すにあたっては、実施率の観点だけでなく、具体的にどのようなスポーツを実施しているのかなどを把握していかないと見直しの際の資料になりにくいと思う。</p> <p>○ 個別施策G3-1の成果指標「V・フェアレン長崎招待事業の応募件数」について、今度、市にサッカースタジアムが建設予定ということで、V・フェアレン長崎に関する指目を追加したことは良いと思うが、これは小中学生とその保護者のみが対象であるため、例えば、諫早のスタジアムにどれほど長崎市民が来場したかといった指標の方が単純ではないか。</p>	スポーツ振 興課				●		1	長崎市スポーツ推進計画の計画期間は平成33年3月までとなっているため、計画見直しの際には、どのような運動・スポーツを実施しているかといった質問を実施調査の項目とすることについて検討する。
			成果指 標	スポーツ振 興課				●		2
	スポーツ振 興	<p>○ 中学校の先生が部活動の顧問を務めることで大きな負担がかかっており、働き方改革でも問題になっている。そういった状況の中で、どうやってスポーツを振興していくのが重要ではないか。</p>	スポーツ振 興課			●			3	国が示したガイドラインを受け、中学・高校の運動部活動が適切に実施されるよう、県教育委員会が「長崎県の運動部活動の在り方に関する方針」を策定しており、県教育委員会、市町教育委員会及び関係団体等が協力して抜本的な改革に取り組むこととしている。
	スポーツ振 興	<p>○ 優秀な指導者の地元への定着について、市だけで実現できる問題だとは思わなかったため、教育機関あるいは企業等の垣根を超えた働きかけや対話を市が主導して進めるとよいのではないか。</p>	スポーツ振 興課					●	4	優秀な指導者の地元への定着については、県、市、競技団体及び企業等が連携し実施している。 今後とも関係団体との連携をさらに深め、定着を図ってきたい。
	スポーツ振 興	<p>○ 地域の指導者が、20年、30年とずっと地域に根ざして指導されているため、それをもっと活かした方法でスポーツの活性化を図るとよいのではないか。</p>	スポーツ振 興課					●	5	各種競技団体及びスポーツ少年団指導者協議会と連携し、指導者の意見も聞きながら、引き続きスポーツ推進事業に取り組み、スポーツの活性化を図ることとする。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				令和元年度における対応(予定) ※F元当初予算対応含む	番号
				完結	処理中	その他	具体的内容		
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	その他
		みるスポーツ振興	スポーツ振興課	●					6
		みるスポーツ振興	スポーツ振興課	●					7
		施設	スポーツ振興課				●		8
		施設	スポーツ振興課		●				9
		施設	スポーツ振興課	●					10
		その他	スポーツ振興課	●					11

令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月20日

基本施策	G3 スポーツ・レクリエーションの振興を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	いつでも、どこでも、いつまでもスポーツ・レクリエーションに親しんでいる。	
基本施策主管課名	スポーツ振興課	所属長名	
関係課名	中央総合事務所地域整備1課、中央総合事務所地域整備2課、生涯学習課、健康教育課、健康づくり課		

基本施策の評価

Dc 目標を達成しておらず、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「D」とする。
- ・個別施策の成果指標7つのうち、100%以上の目標達成率が2つと半数以下で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 各種イベントに毎回参加する市民はいるものの、新たな市民の参加を増やすことができていない。
- (2) 市営体育施設や学校体育施設など、多くの市民にスポーツをする場所を提供できているが、利用者数は目標値を下回った。
- (3) V・ファーレン長崎のホームゲームへの無料招待に多くの小中学生の応募があり、トップレベルの競技を間近で見る機会を提供できた。
- (4) 国体に出場する県選手団における市出身者の割合が向上したが、全国での好成績につながっていない。
- (5) 小中学生の国際・全国・九州大会出場に係る補助対象件数が目標値を下回った。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
運動・スポーツ実施率 (週に1日以上実施)	37.6% (26年度)	↑ 目標値	46.7	51.3	55.9	60.4	65.0
		実績値	37.4	34.7	36.2		
		達成率	80.1%	67.6%	64.8%		
市営スポーツ施設の利 用者数	2,583,480人 (26年度)	↑ 目標値	2,672,000	2,717,000	2,763,000	2,810,000	2,860,000
		実績値	2,636,866	2,519,983	2,602,788		
		達成率	98.7%	92.7%	94.2%		

今後の取組方針

- (1) 市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、市民参加のスポーツイベントなどの情報提供を効果的に行う。
- (2) 「ラグビーワールドカップ2019」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」のキャンプ実施国の選手を全市民でもてなし、応援する機運を醸成する。
- (3) V・ファーレン長崎のホームゲームへの招待事業を引き続き実施し、スポーツを通じた交流人口の拡大及び地域経済の活性化につなげる。
- (4) 被爆75周年を迎える令和2年に長崎平和マラソンの開催に向けた具体的な準備を進める。
- (5) 施設の空き状況が多い平日昼間に参加可能な市民を対象としたスポーツ教室の実施など、競技団体や指定管理者との連携を図る。
- (6) 競技団体と連携して、競技力向上対策事業を実施することで、競技者の競技力向上に努めるとともに、継続したジュニア選手の強化を図る。
- (7) 長崎がんばらんば国体で育った優秀な指導者の地元への定着を競技団体との連携を図りながら取り組む。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Dc」については、所管評価のとおり。
- この施策の中で、スポーツ施設の整備について需要を把握することが必要ではないか。
- 成果指標の「市営スポーツ施設の利用者数」は、全体のスポーツ施設のごく一部であるので、次期総合計画では県の施設等の数も取り入れるなど、長崎市全体を表すものを検討すべきではないか。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G3-1 スポーツ・レクリエーションを普及促進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	日頃から自分に適したスポーツやレクリエーションに親しんでいる。	
個別施策主管課名	スポーツ振興課	所属長名	谷内 正

平成30年度 of 取組概要

<p>①スポーツイベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民体育・レクリエーション祭や長崎ベイサイドマラソン&ウォークなどの各種スポーツイベントを開催した。 ・「みる、支えるスポーツ」の振興を図るため、「ラグビーワールドカップ2019」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」のキャンプ誘致に向けた取組みを進めた。 ・V・ファーレン長崎のホームゲームに市内の小中学生とその保護者2,400人を無料招待し、県内唯一のプロチームの試合を間近で見る機会を提供することで、「みるスポーツ」を通してスポーツへの関心を高めるきっかけ作りを行った。 ・健康教室において、ノルディックウォーキング教室を18回開催し、287名の市民が参加した。【F7-1から再掲】 <p>※ノルディックウォーキング:2本のポールを使って行うウォーキング。上半身も使うため運動効果の高い種目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操を通して健康づくりの普及・啓発を行うため、地域一斉ラジオ体操を推進し、ラジオ体操講習会を2回開催した。【F7-1から再掲】 <p>②スポーツをする場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営体育施設や学校体育施設の貸出し等、延約260万人の市民に対し、スポーツを「する場所」を提供できた。
--

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2	
各種スポーツイベントへの参加者数	17,759人 (25年度)	↑	目標値	18,800	19,200	19,600	20,000	20,400
		実績値	15,990	15,148	14,830			
		達成率	85.1%	78.9%	75.7%			
市営体育館の利用者数	378,983人 (26年度)	↑	目標値	385,000	388,000	391,000	394,000	397,000
		実績値	377,310	377,556	368,335			
		達成率	98.0%	97.3%	94.2%			
学校体育施設の利用者数	557,424人 (26年度)	↑	目標値	562,000	564,000	566,000	568,000	571,000
		実績値	529,226	471,223	568,627			
		達成率	94.2%	83.6%	100.5%			
V・ファーレン長崎招待事業の応募件数	1,735件 (26年度)	↑	目標値	1,743	1,751	1,759	1,767	1,775
		実績値	1,379	1,772	5,541			
		達成率	79.1%	101.2%	315.0%			

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①スポーツイベント等の開催 ・市民体育・レクリエーション祭や長崎ベイサイドマラソン&ウォークなどの各種スポーツイベントに14,830人の参加があった。	各種スポーツイベントを開催することにより、多くの市民がスポーツに親しむことができた。
①スポーツイベント等の開催 ・「ラグビーワールドカップ2019」及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」のキャンプを誘致した。	キャンプを誘致することで、世界のトップ選手と市民との触れ合いなど通じ、一流のスポーツを身近に感じる機会を提供できた。
①スポーツイベント等の開催 ・V・ファーレン長崎のホームゲームへの無料招待に5,541件の応募があった。	トップレベルの競技を間近でみる機会を提供することで、より「みるスポーツ」への関心を高めることに繋がった。
②スポーツをする場所の提供 ・市営体育施設や学校体育施設を延約260万人の市民に貸し出した。	市営体育施設や学校体育施設の貸出しにより、多くの市民がスポーツに親しむことができた。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①スポーツイベント等の開催 ・各種スポーツイベントに毎回参加する市民がいる一方で、新たに参加する市民を増やせず、参加者数は減少傾向にある。 ・世界のトップ選手がキャンプをしていることを知らない市民がいる。	・各種イベント開催の広報周知が不十分で、誰でも気軽に取り組めるニュースポーツ等の啓発も不足している。 ・さまざまな機運醸成事業を実施しているが、その効果がまだ十分に現れておらず、報道各社に取り上げられることも少ない。
②スポーツをする場所の提供 ・土日祝日や夜間の利用者は多いが、平日昼間の利用には空きがある。	平日昼間の利用促進を図る新たな事業の実施に向けての検討が進んでいない。

今後の取組方針

①スポーツイベント等の開催

- ・市民が気軽にスポーツに親しむことができる新スポーツなどの周知やそれを体験できる機会を提供するとともに、市民参加のスポーツイベントなどの情報提供を効果的に行う。
- ・「ラグビーワールドカップ2019」のキャンプ及び「東京2020オリンピック・パラリンピック」のキャンプを通じて、「みる、支えるスポーツ」の振興を図るとともに、全市民でもてなし、応援する機運を醸成する。
- ・早期のJ1復帰をめざすV・ファーレン長崎のホームゲームへの招待事業を引き続き実施し、スポーツを通じた交流人口の拡大及び地域経済の活性化につなげる。
- ・スポーツツーリズムによる地域活性化のため、各種スポーツ大会や合宿の誘致活動、相談業務、情報発信を一元的に行う窓口として、平成28年3月に設立された「長崎県スポーツコミッション」と連携し、スポーツ大会・合宿の誘致に取り組む。
- ・競技団体と連携を図りながら、競技普及活動や各種大会の創設など市民が気軽に参加できる機会を提供し、スポーツ人口の拡大につなげる。
- ・被爆75周年を迎える令和2年に、平和をテーマとしたフルマラソン大会「長崎平和マラソン」を実施するため、令和元年度は実施計画の策定、ランナー募集、交通規制に関する周知徹底、コースの公認取得並びに県警等関係機関との協議といった具体的な準備を進める。

②スポーツをする場所の提供

- ・施設の空き状況が多い平日昼間の利用促進を図るため、平日昼間に参加可能な市民を対象としたスポーツ教室の実施など、競技団体や指定管理者との連携を図る。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	(事業名) 社会体育行事開催費 【スポーツ振興課】 (事業目的) 各体育行事参加者の健康増進とスポーツ人口の底辺拡大を図る。 (事業概要) スポーツイベントの開催(レクリエーション・スポーツ教室、市民体育・レクリエーション祭、長崎ベイサイドマラソン&ウオーク、長崎新春駅伝等)	実施年度	継続	
		成果指標	各種スポーツイベントへの参加者数	
		目標値	19,200 人	19,600 人
		実績値	15,148 人	14,830 人
		達成率	78.9 %	75.7 %
		決算(見込)額	23,787,807 円	23,787,393 円
		成果指標及び目標値の説明	スポーツイベントへの参加者が増えることで、スポーツをする機会の充実が図られていると考えられるため、市主催の各種スポーツイベントへの参加者数を成果指標とした。 基準値17,759人(平成25年度)から毎年2%増とすることを目標とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	・レクリエーション・スポーツ教室：418人 ・市民体育・レクリエーション祭：7,670人 ・長崎ベイサイドマラソン&ウオーク：5,395人 ・長崎新春駅伝：1,290人 ・その他のイベント：375人 合計：15,148人	(取組実績)	・レクリエーション・スポーツ教室：469人 ・市民体育・レクリエーション祭：7,259人 ・長崎ベイサイドマラソン&ウオーク：5,459人 ・長崎新春駅伝：1,336人 ・その他のイベント：307人 合計：14,830人
	(成果・課題等)	イベント当日の悪天候等の影響で、参加人数が減少したことにより、目標人数には達しなかった。	(成果・課題等)	イベント当日の悪天候等の影響で、参加人数が減少したことにより、目標人数には達しなかった。特に大きく減少したイベントについては、周知活動を強化する必要がある。
2	(事業名) 小・中学校体育施設開放運営費 【スポーツ振興課】 (事業目的) 市民への社会体育の普及及びスポーツ活動の場の確保を図る。 (事業概要) 小・中学校体育館・武道場・運動場等の貸出及び管理運営を行う。	実施年度	継続	
		成果指標	小・中学校体育施設開放の利用者数	
		目標値	544,000 人	546,000 人
		実績値	450,618 人	544,973 人
		達成率	82.8 %	99.8 %
		決算(見込)額	19,267,169 円	18,648,453 円
		成果指標及び目標値の説明	施設利用者が増えることで、スポーツをする施設の充実が図られていると考えられるため、市立学校運動場及び体育館等のスポーツ解放による利用者数を成果指標とした。 基準値537,876人(平成26年度)から毎年0.4%増を目標とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績)	体育館：381,061人 運動場：22,720人 武道場：46,837人 合計：450,618人	(取組実績)	体育館：479,636人 運動場：20,752人 武道場：44,585人 合計：544,973人
	(成果・課題等)	小・中学校体育施設の工事等により、開放可能な校数や期間が減ったことなどにより、利用者数は目標値に達しなかった。	(成果・課題等)	利用者数は目標値に達しなかったが、市民の身近にある学校の体育施設を開放することで、気軽にスポーツをする場を提供できた。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
3	<p>(事業名) ラグビーワールドカップキャンプ誘致推進費</p> <p>【スポーツ振興課】</p> <p>(事業目的) ラグビーワールドカップ2019における各国代表チームのキャンプを長崎市に誘致することで、世界のトップ選手とのふれあいなどを通じた国際交流を行い、地域活性化につなげるとともに、長崎市のスポーツの振興を図る。</p> <p>(事業概要) 大会開催前に実施される事前キャンプ並びに大会期間中に実施される公認キャンプ誘致のため、各国との交渉や情報収集を行う。</p>	実施年度	平成27～令和元年度	
		成果指標	キャンプ実施決定件数	
		目標値	2 件	2 件
		実績値	1 件	2 件
		達成率	50.0 %	100.0 %
		決算(見込)額	11,953,470 円	3,981,665 円
		成果指標及び目標値の説明	ラグビーワールドカップ2019におけるキャンプについて、長崎市での実施が正式に決定した件数を成果指標とした。 事前キャンプ、公認キャンプそれぞれ1件ずつ、合計2件の実施を目標とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 大会組織委員会による公認キャンプの視察対応を行った。	(取組実績) キャンプ実施に向け、スコットランド関係者や大会組織委員会等との協議を継続的に行った。		
	(成果・課題等) 公認キャンプ地は、平成30年度に決定されるため、引き続き、公認キャンプ誘致に向けた取り組みを実施していく。	(成果・課題等) スコットランド代表チームの事前キャンプに引き続き公認キャンプ地として大会組織委員会から決定がなされた。		
4	<p>(事業名) ラグビーワールドカップキャンプ交流事業費</p> <p>【スポーツ振興課】</p> <p>(事業目的) ラグビーワールドカップ2019において、事前キャンプを実施する予定であるスコットランドとの交流事業を行い、国際性を有する青少年の健全育成及びスコットランド代表チームを市全体で歓迎するための機運の醸成を図る。</p> <p>(事業概要) スコットランドラグビー協会が来崎した際の交流レセプション開催、スコットランドラグビー協会によるラグビー教室の開催や学校訪問、長崎市とスコットランドの子どもたちの相互派遣を実施する。</p>	実施年度	平成28～令和元年度	
		成果指標	交流事業の参加者数	
		目標値	600 人	600 人
		実績値	390 人	300 人
		達成率	65.0 %	50.0 %
		決算(見込)額	323,760 円	1,522,965 円
		成果指標及び目標値の説明	交流事業に参加することで、国際性を有する青少年の健全育成が図られていると考えられるため、交流事業の参加者数を成果指標とした。 類似事業の参加人数を参考とし、毎年600人の参加を目標とした。	
取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・スコットランドラグビー協会によるラグビー教室の開催 1回 120人 ・スコットランドラグビー協会による学校訪問 2校 270人	(取組実績) ・スコットランドU16による各種交流事業の実施 歓迎行事 50人、学校訪問 80人、交流試合(市選抜戦 60人、県選抜戦 60人)、伝統文化体験 50人		
	(成果・課題等) 交流事業の参加人数は、スケジュールの都合により、ラグビー教室の開催が1回となったこともあり、目標値を下回った。今後もスコットランドとの交流を継続し、実施していく。	(成果・課題等) スコットランドU16チームの滞在日数が限られている中、可能な限りの交流事業を実施したが、参加人数は目標値を下回った。 翌年の本番に向け、より効果的な交流事業の実施を検討していく。		

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
5	<p>(事業名) 東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致推進費</p> <p>【スポーツ振興課】</p> <p>(事業目的) 東京2020オリンピック・パラリンピックにおける各国選手団のキャンプを長崎市に誘致することで、世界のトップ選手とのふれあいなどを通じた国際交流を行い、地域活性化につなげるとともに、長崎市のスポーツ振興を図る。</p> <p>(事業概要) 大会開催前に実施される事前キャンプ誘致のため、各国との交渉や情報収集を行う。</p>	実施年度	平成27～令和元年度	
		成果指標	誘致活動を実施した相手国の数	
		目標値	3 カ国	3 カ国
		実績値	5 カ国	3 カ国
		達成率	166.7 %	100.0 %
		決算(見込)額	51,900 円	49,900 円
		成果指標及び目標値の説明	誘致活動を実施する相手国の数を成果指標とした。姉妹都市がある国のうち、市内に領事館を有する3カ国への誘致を目標とした。	
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県・長崎県スポーツコミッションと連携し、誘致活動を行った。(オランダ、ポルトガル、ベトナム、ラオス、フィリピン) ・ポルトガル水泳連盟による視察対応を行った。 <p>(成果・課題等)</p> <p>ベトナム及びポルトガルは、長崎市で事前キャンプを実施する意向であり、現在、正式決定に向けた協議を進めている。</p>	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県・長崎県スポーツコミッションと連携し、誘致活動を行った。(ポルトガル、ベトナム、ラオス) ・ポルトガル水泳連盟との間に、キャンプに係る基本合意書の調印を行った。 <p>(成果・課題等)</p> <p>ベトナム及びラオスは、長崎市で事前キャンプを実施する意向であり、現在、正式決定に向けた協議を進めている。</p> <p>今後、より効果的な交流事業の実施を検討していく必要がある。</p>

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	G3-2 競技スポーツを強化します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	競技スポーツにおいて、高い競技力を発揮している。	
個別施策主管課名	スポーツ振興課	所属長名	谷内 正

平成30年度 of 取組概要

①競技力向上のための取組み

- ・国体競技種目のうち、32競技団体に対し、各競技団体が実施した強化事業を支援することで競技力の向上を図った。
- ・43競技団体に対して、スポーツ教室や指導者研修会等のスポーツ普及指導事業を支援することで、各種スポーツの普及・振興を図った。
- ・各競技団体が実施する強化練習、遠征試合、優秀チームや指導者招聘などのジュニア強化事業を支援することでジュニアスポーツの競技力向上を図った。(31競技団体、実施回数509回、参加児童生徒22,052人) ・全国大会等に出場する選手に対して、経費の一部を補助することで、経済的な負担の軽減を行った。(補助件数: 360件)

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
国民体育大会に出場する長崎県選手団における長崎市出身者の割合	33.9% (26年度)	↑ 目標値	35.3	36.0	36.7	37.4	38.2
		実績値	35.3	32.2	34.7		
		達成率	100.0%	89.4%	94.6%		
スポーツ表彰の受賞件数	114件 (25年度)	↑ 目標値	127	132	137	142	147
		実績値	80	93	55		
		達成率	63.0%	70.5%	40.1%		
【補助指標】 小中学生の国際・全国・九州大会出場に係る補助対象件数	253件 (26年度)	↑ 目標値	270	280	290	300	310
		実績値	270	266	245		
		達成率	100.0%	95.0%	84.5%		

評 価 (成 果 と 効 果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
①競技力向上ための取組み ・国体に出場する県選手団における市出身者の割合が向上した。	各競技団体が実施する強化事業が功を奏し、各競技者が高い競技力を発揮することにつながった。
①競技力向上ための取組み ・各競技団体が実施するジュニア強化事業を支援することで、実施団体、実施回数が増加し、その結果参加する児童生徒人数を増やすことができた。	ジュニア世代の強化が進むことで、将来的に継続した競技力の向上が図られた。

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
①競技力向上ための取組み ・国体の県代表となるまでの競技力は高まったものの、全国での好成績になかなかつなげない。 ・小中学生の国際・全国・九州大会出場に係る補助対象件数が目標値を下回った。	・競技力向上の取組みは、すぐに効果が表れないものもあるため。 ・少子化の影響で、特に団体競技ではチーム編成にも苦慮している状況にあり、切磋琢磨できる環境や出場機会の減少につながっているため。

今後の取組方針

①競技力向上ための取組み ・今後も競技団体と連携して、競技力向上対策事業を実施することで、競技者の競技力向上に努める。また、競技力向上対策が、国体までの一過性のもとならないよう、継続したジュニア選手の強化を図る。 ・指導者の資質向上を図るため、民間指導者の発掘や指導者講習会を行う。 ・長崎がんばらんば国体における競技役員等の養成事業により、競技団体の競技運営能力が向上していることを踏まえ、今後も質の高い競技会を開催しながら、選手の育成・強化に取り組む。 ・長崎がんばらんば国体で育った優秀な指導者の地元への定着を競技団体との連携を図りながら取り組む。 ・スポーツ少年団等の部員募集を支援するとともに、万一合同チームの結成やチームの合併等になったとしてもスムーズな移行ができるよう、普段からスポーツ交歓会の開催等を通じて部員相互の親睦を図るなど、子どもたちが競技を続けられる環境づくりを行う。
--

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード：G3-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) ジュニアスポーツ競技力向上対策費補助金</p> <p>【スポーツ振興課】</p> <p>(事業目的) 全国大会等での本市ジュニア選手の活躍を増やし、底辺の拡大も図る。</p> <p>(事業概要) 市体育協会加盟団体がジュニア層の競技力向上を図る強化合同練習、遠征試合、優秀チーム・指導者招致事業を行うための経費の一部を補助する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	国体長崎県選手団における長崎市出身選手の割合	
		目標値	36.0 %	36.7 %
		実績値	32.2 %	34.7 %
		達成率	89.4 %	94.6 %
		決算(見込)額	15,357,600 円	15,505,708 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市出身者の割合が増えることで、競技者の競技力が向上したと考えられるため、国民体育大会に出場する県選手団における市出身者の割合を成果指標とした。</p> <p>基準値33.9%(平成26年度)から前年度比2.0%の増とすることを目標とした。</p>	
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>交付団体数:28競技団体 補助対象事業:386回 事業参加者数:20,948人</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>目標値に達していないが、国体での長崎県選手団全体の順位は、28位から24位に向上しており、競技レベルの向上は図られている。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>交付団体数:31競技団体 補助対象事業:509回 事業参加者数:22,052人</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>目標値にわずかに達していないが、実施団体、実施回数が増加し、その結果参加する児童生徒人数を大きく増やすことができ、競技レベルの向上が図られている。</p>

